snow peak
outdoor lifestyle creator since1958

タープスクリーン レクタシリーズ 取扱説明書

このたびは、スノーピーク製品をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。
安全にご使用頂くためにも本取扱説明書を必ずお読みください。
取扱説明書は大切に保管してください。

注意事項

フィールドでは予測不可能な事態が突発的に発生し、時にはプロダクツの性能を超えるような状況に直面する場合もあります。以下の説明がすべての危険な状況を説明している訳ではありません。プロダクツの性能をよく理解したうえで安全なキャンプをお楽しみください。

火気厳禁

□このテントの素材は難燃性ではありません。テント内では燃焼式のランタンやコンロ、ヒーターなどの熱源や、マッチ、ローソク、ライター、タバコなど裸火や炎は絶対に使用しないでください。限られた空間での火気の使用は火災や酸欠、一酸化炭素中毒などの恐れがあり大変危険です。
□テント内で燃料を保管したり、燃料を補給するなど、引火性のあるものを持ち込まないでください。
□高温に加熱されたものや発熱性のあるものを持ち込まないでください。

天気・気象状況

□気象状況には常に細心の注意を払い、悪天候が予想されるときは速やかにキャンプを中止して安全な場所へ避難してください。万一悪天候にみまわれた場合や、風の強い時などはパネルをロールアップし、風を逃しポールへの負担を軽減させることをお勧めします。

運営・設営場所

□風の吹きぬけるような場所や、雪崩、がけ崩れ、急な出水などの恐れのない地盤のしっかりとした、水はけのよい平坦な場所を選んで設営してください。
□燃焼式のランタンやコンロ、ヒーターなど熱源のそばで組み立てたり、使用しないでください。万一熱源が転倒したり落下しても延焼しない距離を保ってください。
□たき火や花火などのそばで組み立てたり、使用しないでください。特に風下側では火の粉を履り、生地に穴をあけてしまう場合があります。
□樹液が付着してしまうときれいに除去することはできません。樹液が垂れそうな木の下を避けて設営してください。溶剤などにより無理に除去すると生地やコーティングを傷めます。
□ペグや張り綱でしっかりと固定してご使用ください。

永くお使い頂くために

スノーピーク製品の優れた品質は正しい取扱いとメンテナンスにより維持されるものです。プロダクツの機能を損なわないためにも、以下のポイントに留意してください。

応急処置

□不測の事態によりフレームや、本体生地が損傷する場合がありますので、リペア用品（ガムテープ、ビニールテープ、添え木になるようなパイプなど）を携行し、速やかに応急処置を施してください。損傷したまま放置すると、大がかりな修理が必要になったり、修理不能になる場合があります。損傷度合いが激しいものは速やかにガムテープなどで両面から貼り合わせるか、撤収してください。
□本体生地が破れてしまったり、穴があいてしまったときは、傷が広がらない為にも、速やかにガムテープなどで両面から貼り合わせるか、撤収してください。
□フレームが折れたときは速やかにリペアパイプや添え木をあて、ビニールテープなどで固定するか、撤収してください。

撥水・防水性能について

□防水性の高い生地を使用しておりますが、地面の水溜まりなどと長時間接触していると雨水が浸み込む場合があります。

紫外線の影響について

□長期間日光にさらされた場合、退色や生地劣化などの強度低下を起こしますので、常設用として使用しないでください。
□紫外線の影響と思われる素材の劣化により、耐久度合を越えたものは修理できない場合があります。

メンテナンス・保管

□濡れたまま保管すると、カビや異臭、生地の色うつり、生地の劣化などのトラブルの原因となりますので、使用後は風通しの良い日陰で十分に乾燥し、柔らかいブラシなどで汚れを落としてから保管してください。
□高温多湿を避け、直射日光の当たらない風通しのよい場所に保管してください。
□ファスナーに泥や砂、ホコリなどが付着したまま使用すると摩耗し破損の原因になりますので、ブラシなどを使い常に清潔にしてください。また、スライダーの動きを滑らかにするために、少量のシリコン系潤滑剤を定期的に塗布してください。塗布し過ぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。
□小さな生地の破損は市販のリペアテープで補修できます。補修の際はリペアテープの説明書を良くお読みください。
□ご使用により広範囲にわたり素材が劣化し、耐久度合を超えたものは修理できない場合があります。
□次回の使用に備え、ペグなどの付属品も含め十分に保守、点検をしてください。

修理について

□本格的な修理が必要な場合は、お買い求めになった販売店または弊社ユーザーサービス係までお問い合わせください。
□修理を依頼される場合は、必ず十分に乾燥させ、汚れをきれいに落としてください。
□修理品には修理箇所がはっきりと分るように、必ずメモまたは荷札を付けてください。また破損時の状況をできるだけ詳しく書いたメモを添えてください。
□修理品の運賃並びに修理費については以下のように規定させていただきます。
1.保証対象の場合:往復運賃並びに修理費は、弊社にて負担いたします。
2.保証対象以外の場合:往復運賃並びに修理費は、お客様のご負担とさせていただきます。

品質保証について

スノーピークのプロダクツは、フィールドで確実に機能するためにフィールドテストからスペックが決定し、長期間にわたって使い込んでいただけるような品質管理がなされています。万一、明らかに製造上の欠陥による問題が生じたときは、無料で修理又は新品と交換させていただきます。また、以下のような破損につきましては保証できませんのでご了承ください。

1.不測の事故による製品の破損
2.誤った使い方や粗雑な扱いによる製品の破損
3.経年変化や紫外線の影響による素材の劣化
4.その他製造上の欠陥以外による製品の破損
5.改造品の破損

初めてお使いになる前に

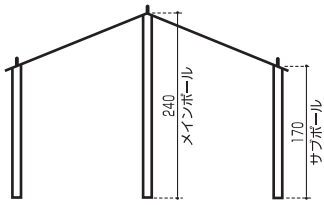
□品質には万全を期しておりますが、お使いになる前に必ず試し張りを行い、付属品や設営具合を確認してください。万一不具合があった場合は、お買い求めになった販売店または弊社ユーザーサービス係までお問い合わせください。

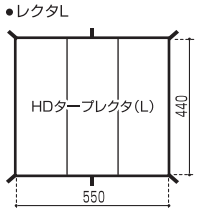
※本品には、タープシート・ポール・ロープはセットされておりません。

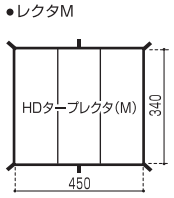
□基本的な設営にはタープ用ポール（メイン用×2本、サブ用×4本）、ペグ×8本等が別途必要です。推奨サイズをご参考の上、ご用意ください。

■取り付けが可能なタープ、ポールの推奨サイズ（ｃｍ）

□推奨タープ
レクタ（Ｌ）:スノーピークHD “タープ” レクタ（Ｌ）
レクタ（Ｍ）:スノーピークHD “タープ” レクタ（Ｍ）
□推奨ポールタープ（勾配を60～100cmに設定）
レクタ（Ｌ）:280cm×2本、170cm×4本
レクタ（Ｍ）:280cm×2本、170cm×4本
□タープ用推奨ペグサイズ　打ち込み長さ25cm以上×8本

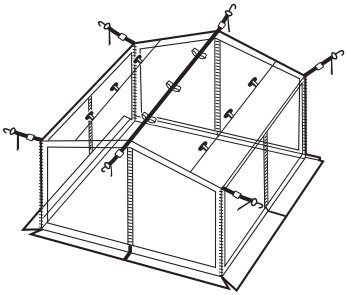




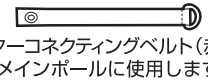


単位cm

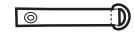
■セット内容



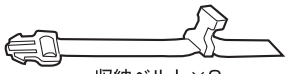
スクリーンレクタ本体×1



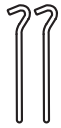
センターコネクティングベルト（赤）×2
（メインポールに使用します）



コーナーコネクティングベルト（黒）×4
（サブポールに使用します）

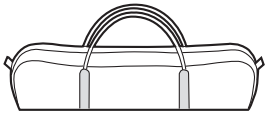


収納ベルト×2



アルミペグ×12

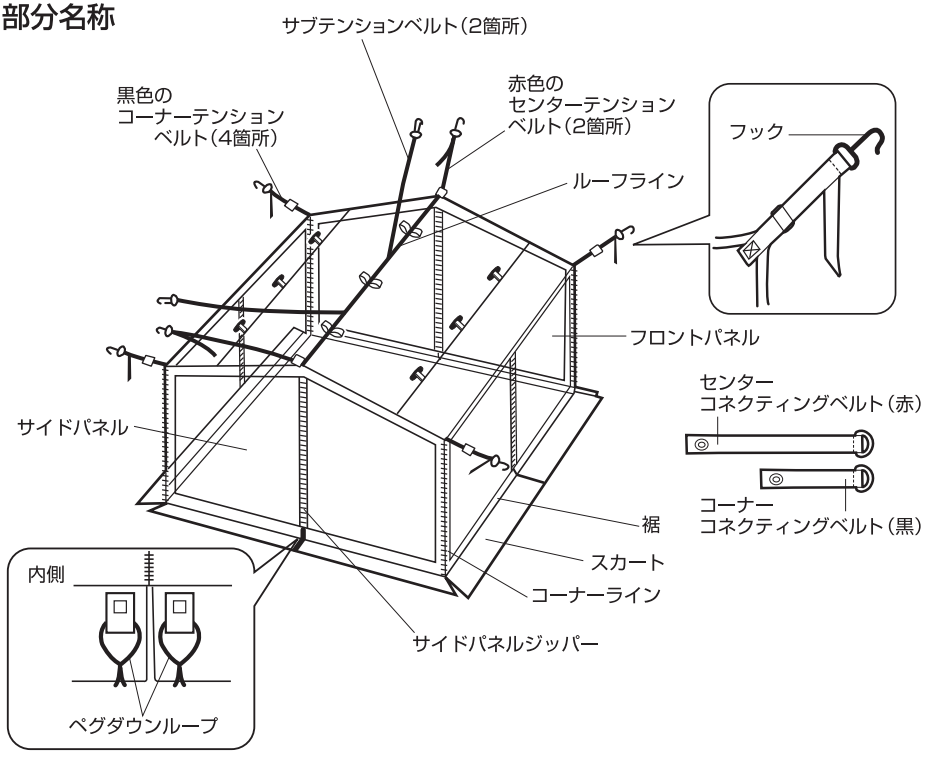
ペグケース×1



キャリーバッグ×1

□セット内容は一般的な条件下での設営を基本としたものです。基本的な設営にはレクタタープ、タープ用ポール（メイン用×2本、サブ用×4本）、ペグ×8本が別途必要です。別記の推奨サイズをご参考の上、ご用意ください。また、ペグやロープ、自在は消耗品ですので、常に予備を携行することをお勧めします。

■部分名称



タープスクリーン“レクタ”設営の手順

□設営・撤収・収納は取扱説明書に従い繰り返し練習し、実際のキャンプに備えてください。
無理な設営・撤収はポールや本体破損の原因になります。

1）タープを設営します。〔図1〕…※お手持ちのタープの取扱説明書をよく読んでください。
タープの長辺中央にメインポールがくるように張ってください。
各ポールの先端に、予めセンターコネクティングベルトを掛けておきます。〔図1-1〕

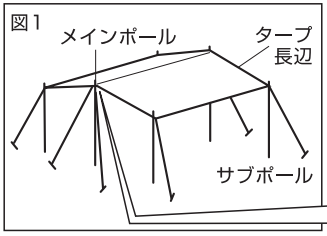
※風の吹き抜けるような場所や、雪崩、がけ崩れ、急な出水などの恐れのない地盤のしっかりとした、水はけのよい平坦な場所を選んで設営してください。

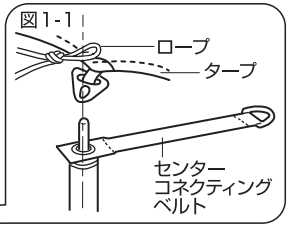
※タープ単体での使用に比べ、タープスクリーンは横風を強く受けますので、しっかりと設営してください。

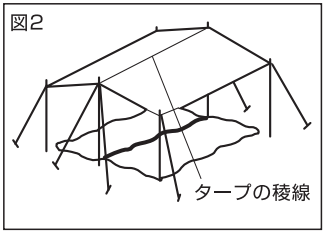
※タープスクリーンに付属のアルミペグは、タープ設営には絶対に使用しないでください。

2）設営したタープの下にタープスクリーンを拡げます。
タープスクリーンのルーフラインがタープ稜線の真下にくるように広げます。〔図2〕

※タープの下にイスやテーブルなど設営の妨げになるものが無い状態で作業を行なってください。





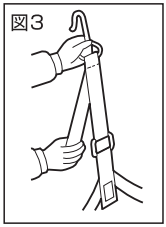


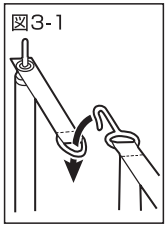
3）タープスクリーンをつり下げます。
本体にある6本のテンションベルトの長さを予め調節しておきます。〔図3〕
コネクティングベルトへ、センター・サブテンション・コーナーテンションベルトの順にフック掛けしていきます。〔図3-1〕

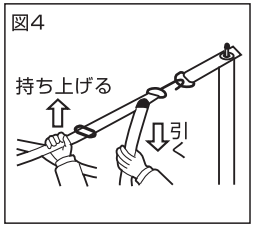
4）テンションベルトを引いてタープスクリーンを張っていきます。
センター2箇所、コーナー4箇所の順に各テンションベルトが均一な長さになるように少しずつ引いていきます。
スクリーンの裾が立ち上がるまで少しずつ引いてください。

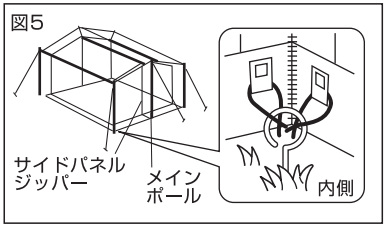
※急激に強く引くとタープが緩んだりポールが倒れたりするなど大変危険ですので必ず本体を持ちながらベルトを引いてください。またタープスクリーン本体の破損につながりますのでご注意ください。〔図4〕

5）裾部分をペグダウンします。
センター両側の裾は、スクリーンのサイドパネルジッパーとメインポールが平行になるように、ルーフラインから垂直に降ろしてペグダウンします。
スクリーンの裾が立ち上がるまで少しずつ引いてください。〔図5〕
コーナー4箇所は本体の裾がきれいな長方形になるようにペグダウンしてください。









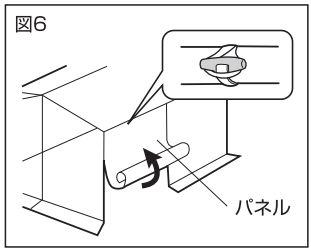
6）設営が終わったら全体の張り具合を必ず点検してください。
タープスクリーンやタープにシワが寄っていたり、ポールが斜めになっているなど歪んでいるときはペグの位置や、ロープ、テンションベルトの引き具合を調整し形を整えてください。

※タープスクリーン、タープの設営が不完全な場合、思わぬ事故になることがありますので、点検は必ず行い確実に設営されていることを確認してください。

7）最後にスカート部分を外側に拡げます。
設営後も…

※風のあるときは、ロープやペグを増設して必ず補強してください。

※強風下では、タープを含めて速やかに撤収してください。



ロールアップするとき

8）パネルロールアップします。
両サイドのファスナーを開けパネルをロールアップし、トグルとロープで止めます。〔図6〕

ハーフサイズでご使用のとき

※どちら側からでも、ハーフサイズにできます。

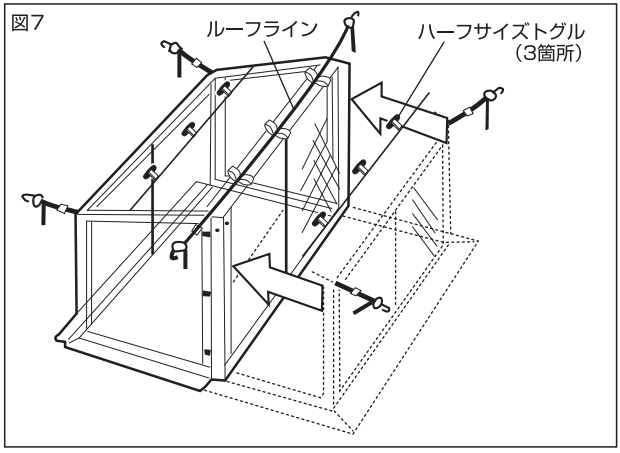
9）コーナーテンションベルトをセンターコネクティングベルトに掛けます。
エントランスパネル側のコーナー2箇所のフックを外し、センターコネクティングベルトに掛けます。〔図7〕

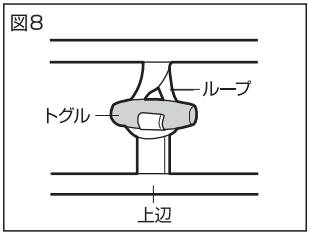
※タープの下にイスやテーブルなど、設営の妨げになるものが無い状態で作業を行ってください。

10）外側をトグルとテープで止めます。
ルーフラインとハーフサイズトグル（3箇所）がズレないように止めます。〔図8〕
センターコネティングベルトに掛けたコーナーのテンションベルトを少しずつ引きます。

※急激に強く引くとタープのロープが緩んだりポールが倒れたりするなど危険ですので必ず本体を持ちながらベルトを引いてください。また、タープスクリーン本体の破損につながりますのでご注意ください。〔図4〕

11）移動したパネル下部をペグダウンします。





12) 設営が終わったら全体の張り具合を必ず点検してください。
タープスクリーンやタープにシワが寄っていたり、ポールが斜めになっているなど歪んでいるときはペグの位置や、ロープ、テンションベルトの引き具合を調整し形を整えてください。

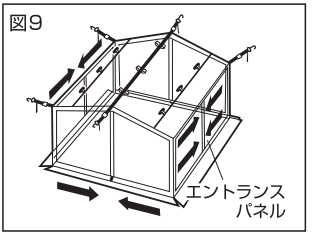
13) 最後にスカート部分を外側に拡げます。
設営後も…
※風のあるときは、ロープやペグを増設して必ず補強してください。
※強風下では、タープを含めて速やかに撤収してください。

収納方法

※収納は2人で行なうとスムーズです。

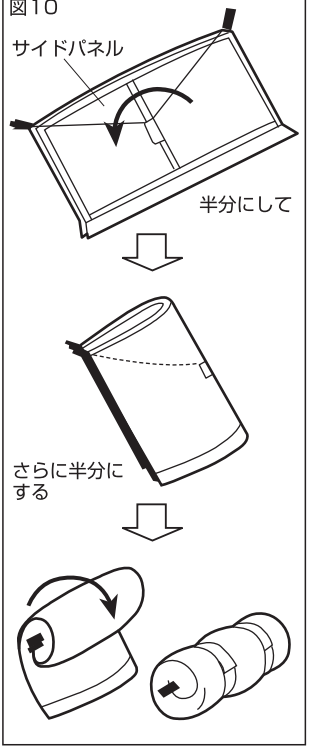
1) ペグ、テンションベルトを外します。
タープスクリーン裾部に打ち込んだペグを全て抜きます。
6箇所のテンションベルトをコーナー、センターの順に緩めてフックを外します。
※タープスクリーンの下にイスやテーブルなどの、設営の妨げになるものが無い状態で作業を行ってください。

図9



2) スクリーン本体天井部を半分にたたみます。
両サイドのコーナーテンションベルトを図のように合わせます。〔図9〕
エントランスパネルを内側に折り込みながら、コーナーラインを図のように合わせて下に置きます。〔図10〕
※地面が濡れている場合や、凸凹が多い場所で収納すると、本体が汚れたり、メッシュ地を傷める原因になりますので避けてください。

図10



3) 半分にたたんでロールアップします。
4つ折りにたたんでからスカート部に向かってロールアップし、収納ベルトで止めます。〔図8〕
※テンションベルトをメッシュ生地側に折り込まないでください。

4) タープに残っている6本のコネクティングベルトを外します。
タープ撤収時にコネクティングベルトを外し、ケースに入れ本体と一緒にフルケースに入れて完了です。

□ ポールやペグはそれぞれの付属の専用ケースに先端部が上になるように入れ、キャリーバッグに収納してください。
むき出しの状態で収納すると本体生地が損傷することがあります。